

最上川200kmを歩く 小学校探検リレー

5月8日にスタートした『最上川200kmを歩く』。
最上川の源流から河口までを11週にわたり11の小学校の子供たちがリレーします。
第3週(5/22)と、第4週(5/29)は、長井出張所の管理区間を歩きました。

第3週

5月22日、飯豊町立添川小学校の5,6年生14人が
白川合流点(長井市)から
睦橋(白鷹町)の区間を担当しました。
まずはバスで移動し長井ダム、まなび館を見学。
その後はさくら大橋から
長井橋左岸市民運動公園まで
フットパスを強い日差しの中、元気に歩きました。



第2週の南陽市立赤湯小学校4年生から
バトン代わりにピックフラッグを託されました。



フットパス(歩くことを楽しむための道)には
小川を飛び石で渡ることが出来る場所も。



フットパスを歩き、近くの木陰で水質検査。

第4週

5月29日、白鷹町立東根小学校の4年生26人が
睦橋(白鷹町)から
^{いもかわ}新五百川橋(朝日町)の区間を担当しました。
午前中は睦橋から荒砥橋までの堤防を散策。
あゆ茶屋で昼食をとった後は、
菖蒲水位観測所からつぶて石まで
フットパスを歩き、最上川の流れを間近で感じました。



堤防の役割を学びながら歩きました。



最上川すくそばにあるフットパスの木道。



つぶて石にまつわる伝説に
耳を傾けていました。